

平成18年6月16日開催

## 第7回 自治基本条例をつくるワークショップ会議のまとめ

テーマ「コミュニティの役割」「住民協働」

- ・コミュニティ組織について感じていること（組織や活動）
- ・コミュニティ組織はこうあるべきだ（現在のコミュニティ組織に望むこと）
- ・これからどのようなコミュニティが必要か（一員として活動したいコミュニティ組織）
- ・協働のパートナーとしてコミュニティ組織ができること、やりたいこと（市役所がやっていることで、または、公共的なもので）

稚内市政策経営室

## コミュニティが抱える問題

- ・方向性を示した地域活動
- ・目的を持ったコミュニティを作るべき
- ・自分の地域のためになる活動をしたい(高齢者への対応)
- ・コミュニティとして子どもたちが安全に遊べる場の確保
- ・凝り固まった組織となっている
- ・一部の人間だけが長い間居座っている
- ・一度足を踏み込んだらなかなか抜けられない
- ・慣習の多いコミュニティがある
- ・義務的参加が多い(義務感の参加を排除する)

## 解決のために

- ・小さなことを多くの人間で行うことができるのがコミュニティとなり得る
- ・コミュニティへの誘いは理解する人を誘う(単に知り合いを入れない)
- ・誰でも入りやすい組織づくり
- ・個人の問題意識が高まるような言葉や呼びかけ
- ・能力のある市役所職員も積極的に一市民としてコミュニティに参加して欲しい
- ・コミュニティのリーダーは一定期間経過したら一会員になる
- ・結合・解散が自由にできるコミュニティ化
- ・役職で選ぶ役職の排除できるコミュニティ
- ・コミュニティに参加する1人1人の意識の共有が必要
- ・コミュニティ同士の協働ができる下地を行政が準備する
- ・顔をあわせた付き合いが大事(コミュニケーション)
- ・お互いの立場を尊重

## 活動の為の課題

- ・無償ボランティア活動で得られるものは「達成感」「満足感」
- ・責任の所在をはっきりさせなければならぬものにはボランティアではなく、もっと金をかけるべきだ
- ・PTA活動・育成部活動等、無償で行う活動で一人相撲をとっているような虚しさを感じるときもあるが、結局やりたいからやっているような気がする
- ・地域コミュニティという言葉が最近耳にするが、地域に関連した問題等を解決したり、することを事業とする「ビジネス」、生計を立てられるようなものに(会社法人・NPO法人等)

## 解決策

- ・概算予算をコミュニティごとに作る(予算は毎年つける)
- ・活動資金の3分の1程度、行政等が自動的に援助するシステム作り

## コミュニティの役割・住民協働

### コミュニティの役割

～コミュニティ組織について～

- ・メンバーが固定してしまいがち
- ・団体の長は名誉職ではない
- ・地域にいろいろなコミュニティがあるが、会長などトップが同じになることが多く、活動方向が似かよっている

～コミュニティはこうあるべき～

- ・自然発生的な行動を外部から制限するのではなく、自主性を重んじる
- ・地域の活動に対して、既存の組織が方針を示すなどすることは協働でなく、上下関係である
- ・無理に組織化することはない
- ・地域のための活動は無理に組織はせず、できることをできる範囲でやるという発想も必要

・安全・安心して暮らせるコミュニティ

・高齢化社会における防災対策・一人暮らしのお年寄りの健康管理は行政のみでは行き届かず、地域社会で担わなければならない

・ある業界の取り組みとして、独居老人宅の様子を見守る活動がある

・町内会＝住民が高齢化・独り世帯が増えてくるため、隣近所のつながりが大切

・役所に頼らず、金・知恵・労力は自前でという考え方も必要

・町内会役員が高齢化→楽しく参加させることを考えたら若者も集まる

・若い人を取り込む努力(活動の楽しさを伝えなければ長続きしない)

・楽しくなければボランティアじゃない

・数は力、質は強さ

・少ない人数で始めたことも、全市的な広がりを作り出せる

～問題点～

・コミュニティが組織を作ること、維持することに専念しすぎて本来の目的を見失うことがある⇒(手段の目的化)

・転勤族と人的関係が深いコミュニティとの関わり方が課題(転勤族の意欲と地元住民の受け入れ体制)⇒新鮮な意見の獲得

・住民として果たすべき責務をもっと明確に要請すべき⇒周辺の美化・ごみ分別・ごみステーションの清掃など

・同じ活動をする複数の団体が1つになって活動することがない⇒ライオンスクラブ、ロータリークラブ、ソロフティミスト等、一緒に活動できないのか

### 協働

・協働ということに、行政と市民の間に意識の差がある

・住民と行政の協働という意味では、住民はもっと意識を高め、行政は住民の目線にまで下りて、お互いに歩み寄ることが必要

・市民のコンセンサスを得ること(YES・NOの意見を述べることでも)協働に値する

90年のボツラを切る時に、事前にコミュニティへ賛否を問える行政の協力を

・一点集中でできる行事があればよい→住民同士の協働、行政と住民の協働の成果は「お祭り」最も良く現れる

・あるコミュニティの活動が他に広がっている(スノーキャンドル等)

・同じ目的を持ちながら、コミュニティ同士が対立してしまう、おかしな「共同体意識」の解消

・協働するコミュニティはトップがそれぞれ異なることが望ましい  
それぞれの特色を併せて新しいものを作って行くのがベスト

・子どもの安全を守るため、住民と警察行政との協働も重要になってくるだろう

## コミュニティに望むもの

- ・組織の弊害⇒分担するので自分の分だけやればいい、基本的な家族の単位がこわれている
- ・執行部が常態化すると風通しが悪くなり、新しい発想に欠ける、トップの流動化が必要、おかしな権限につながる恐れ
- ・違う土地から入ってきた場合、既存の共同体(協働)へ入りにくい⇒非常にその一歩は難しい
- ・他地域から入ってきた場合、知りたい情報が探せない
- ・共同体へ入るための窓口不明
- ・ボランティアも、してやっているんだという態度はいかなものか、思いやりの気持ちを持って活動してほしい
- ・昔は大家族、今は一人っ子も多く、核家族化や単身赴任なども・・・であれば、地域のおじいさんやおばあさんが、地域が見守ることが必要では
- ・今もう一度地域に育ててもらおうということに帰る必要性

## 住民協働

- ・ファミリーサポートセンターなどは、住民と住民の協働
- ・110番の家・スクールガードの取り組みに意味のあるように⇒縦割りの弊害
- ・きちんとしたネットワークの中で⇒学校の授業での紹介等

## 団体の悩み

- ・協力したい人がいない
- ・金が無い！！

- ・団塊の世代が社会へ戻るためのルールづくりが必要
- ・団塊の世代が企業体から社会の中へ戻っていけるのか  
趣味の部分は入っていけるのでは(自分から入っていく気持ち)
- ・「アソシエーション」と「共同体」の部分を分けて

会社のコミュニティから  
地域のコミュニティへ